

凍てつく夜に、ほとばしる熱気！

国指定重要無形民俗文化財

かりわのおおつなひ

# 刈和野の大綱引き

毎年2月10日開催

今から500余年前、室町時代から続いている伝統行事。由来については諸説あり、平将門の一族である長山氏が落ち延びて刈和野に定住し、その奉ずる氏神が「市神」であり、その祭事として始まったと伝えられています。

ふつかまちの雄綱、いつかまちの雌綱に分かれ、この2本の綱を結び合わせて引き合いが始まります。「ジョウヤサノー、ジョウヤサノー」の掛け声にあわせて、渾身の力で綱を引きます。冬の寒さを吹き飛ばすほどの熱気と歓声が響き合う、日本最大級の綱引きです。**二日町(上町)**が勝てば米の値段が上がり、**五日町(下町)**が勝てば豊作になると言い伝えられています。



激しい引き合いの様子は  
大仙市公式YouTubeで！



雄綱(右)・雌綱(左)は、上町・下町の境界の中心「ドップ」付近に1週間程度当日まで飾られます。



## 刈和野の大綱引きに ふれる・まなぶ

西仙北中学校生徒のコメント

- ・みんなの心が1つに!! 2年: 越山一晴さん
- ・綱のずっしりとした重量感! 2年: 高橋 明里さん
- ・今年はどこかの町内が勝つのか楽しみ! 2年: 鈴木 美穂さん
- ・勝てたときの嬉しさがすごい!! 2年: 福田 木香さん

## 綱作りから引き合いまで

綱は毎年約6~7千束の新藁から、直径最大80cm、周囲2.2m、長さ約64mの雄綱と約50mの雌綱が作られます。綱作りは、住民が協力して作業を行います。上町(二日町)は雄綱で綱の先端は男性の象徴を、下町(五日町)は雌綱でその先端は女性の象徴を表しています。

当日は会場の大通りに飾られた綱が引き伸ばされます。夜には「押し合い」が行われ、会場は熱気を帯びてきますが、「綱合わせ」が始まると、辺りは静寂に包まれます。やがて結び目に立っている建元が「ソーッ」と叫びながら飛び降りると引き合いが始まり、その瞬間地響きに似た喊声が一斉に上がります。引き合い後、固く締まった結び目をほどき、すべての綱は浮島神社の境内に運ばれ、奉納されます。



大綱のもととなる最小単位の綱作り「グミ編み」



大人数で綱を振りあわせる「綱振り」



大綱を結び合わせるために、どちらが先に綱を出すか、どれだけ綱を出すか…の交渉を行う「押し合い」



大綱引きを主宰する建元の1人が手を挙げて綱から飛び降り、引き合いスタート!

もっと詳しく知るには…

大綱引きの歴史や伝統をマンガでわかりやすく紹介した「刈和野の大綱引き物語」(次ページ参照)がおすすめ!

## 大綱交流館・大綱の里伝承館

大綱交流館は大綱引きの魅力を発信し、地域の交流拠点となる施設。綱の引き合いに至るまでの流れを紹介するパネルや映像を観ることが出来るほか、実際の綱が展示されており、大綱引きの迫力を味わうことができます。友好交流都市である韓国唐津市の「機池市綱引き」に関するコーナーも見どころです。大綱の里伝承館は大綱づくりの作業場となっており、上町と下町がそれぞれ作業を行うことができます。



DATA

TEL.0187-75-1115

大仙市刈和野字愛宕下24-1

開館時間: 8:30 ~ 21:00

※夜間の利用が無い場合は、平日は

19:00・土日祝日は18:00に閉館。

休館日: 年末年始(12月29日~翌年

1月3日)



## 刈和野大綱展示場

刈和野駅前にあるこの展示場には、刈和野の大綱引きで使われる迫力満点の大綱が展示されています。※大綱の長さは約40mとなっています。



DATA

大仙市刈和野字愛宕下106-5 JR刈和野駅隣り

※展示場内の見学を希望される方はお問い合わせください。

大仙市役所西仙北支所市民サービス課 TEL.0187-75-1111

マンガで  
わかりやすく紹介

### 西仙北地域 刈和野の 大綱引き物語



西仙北地域の  
魅力再発見サイト

「日本語」「英語」「韓国語」バージョンの  
マンガへのリンクがあります!